

特別テーマ展

「遊佐町の考古学Ⅱ－弥生時代から中世の遊佐町－」展

令和7年6月14日(土)～令和7年9月7日(日)



0

エントランス



看板



ごあいさつ 展示遺跡位置図

第1章 弥生・古墳・奈良時代前半の遊佐町



弥生時代前期の神矢田遺跡(3点)、中期の柴燈林5遺跡(3点)、後期の袋冷遺跡の土器(11点)と丸池出土と記載されている(本来の出土地は柴燈林遺跡か?) 古墳時代の勾玉(4点)・管玉(2点)・金環(1点)・小玉(6点)、奈良時代前半とされる三崎山地獄谷出土の蕨手刀(1点:酒田市指定文化財)と吹浦沖の飛島近海の海底から底引き網漁で上がった須恵器甕(1点)合計32点を展示しています。



第2章 奈良時代後半の遊佐町



奈良時代後半の遊佐町の説明パネル1

剣龍神社西窯跡の調査風景、吹浦遺跡の奈良・平安時代の遺構分布等を示しています。



奈良時代第3四半期の剣龍神社西窯跡の須恵器

宮ノ下遺跡に近い剣龍神社西窯跡で奈良時代8世紀第3四半期の須恵器が出土しています。吹浦遺跡の須恵器も当窯跡で焼かれた可能性があります。



奈良時代後半の遊佐町の説明パネル2

吹浦遺跡の奈良時代の竪穴住居跡の写真、上高田遺跡1次調査の河川跡の位置、土層断面、調査時の写真を示しています。



吹浦遺跡の竪穴住居跡から出土した奈良時代第3～4半期の土器

供膳器は底部ヘラ切の有台・無台壺が大半であるが、底部に蓆痕のある内黒土師器が1点出土している。丸底でタタキのある赤焼土器の長胴甕、堀が伴う。



**上高田遺跡の1次調査河川跡SG最下層出土の8世紀第4四半期の土器
供膳器の有台坯、無台坯は底部ヘラ切りでこれに若干の底部ヘラ切のあかやき土器が伴う。**

第3章 平安時代の遊佐町の供膳器の変遷



平安時代の遊佐町の供膳器の変遷の説明パネル1
9世紀第1四半期の土器が出土した宮ノ下遺跡の河川跡SG1200の調査風景・出土状況等を示しています。



宮ノ下遺跡の河川跡SG1200から出土した9世紀第1四半期の土器

9世紀第1四半期の供膳器には須恵器の壺蓋、大小の有台壺、無台壺と赤焼土器の壺がある。須恵器の底部切り離しはすべて回転ヘラ切で赤焼土器壺も1点を除いてヘラ切である。この中には黒斑をもつものもある。赤焼土器壺の回転糸切のものは混入の可能性も考慮に入れるべきかもしれない。



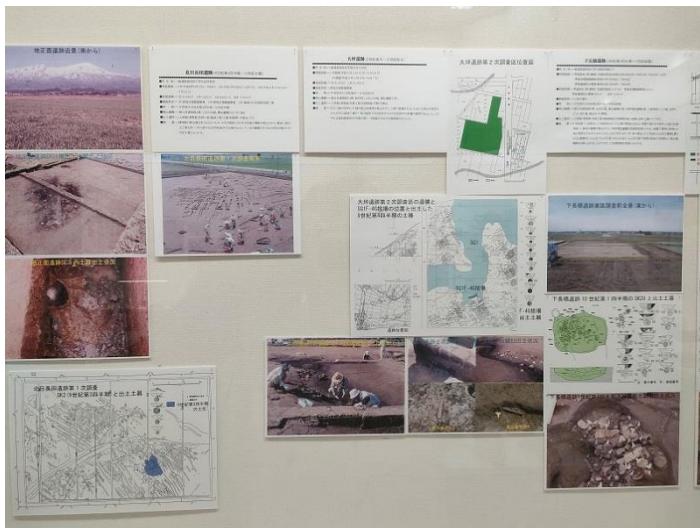
平安時代の遊佐町の供膳器の変遷の説明パネル2

9世紀第2・第3四半期の土器が出土した地正面遺跡、北目長田遺跡の遺構の位置、出土状況などを示しています。



地正面遺跡のSX11、SE3から出土した9世紀第2四半期、第3四半期の土器

9世紀第2四半期地正面遺跡SX11の須恵器壊蓋・有台・無台壊は底部切り離しがヘラ切が主体となるが、回転糸切も出現する。第3四半期のSE3からは大形の内黒土師器・須恵器・赤焼土器が出土したが、底部切り離しは回転糸切が主体となる赤焼土器壊は小形で身が深いものが主となる。



平安時代の遊佐町の供膳器の変遷の説明パネル3

9世紀第3四半期の北目長田遺跡、第4四半期の大坪遺跡SG1と部分的な掘り下げ区のF-4の調査風景と出土状況、10世紀第1四半期の下長橋遺跡SK28の出土状況図と写真を示しています。



北目長田遺跡SK2、下長橋遺跡SP1101、大坪遺跡2次SG1F—4区の9世紀第3・4四半期の土器

9世紀第3四半期に入ると供膳器に占める須恵器の割合が下がり、第4四半期に入ると赤焼土器が増加し、須恵器の割合は40%を切る。底部切り離しは第3・4四半期とも回転糸切となるが、赤焼土器坏は身が深いものが多い



平安時代の遊佐町の供膳器の変遷の説明パネル4

10世紀第1四半期の下長橋遺跡SK28と第2四半期のSB3他の掘立柱建物跡、第4四半期から11世紀第1四半期のSX1105の調査状況写真を示しています。



下長橋遺跡SK28の10世紀第1四半期の土器、10世紀第2四半期小深田遺跡灌漑排水地区のSD77の土器

10世紀に入ると供膳器の須恵器は極めて少なくなる。供膳器の多くは赤焼土器の壊・有台壊・有台皿となり、一定数の内黒土師器の有台・無台壊がある。



下長橋遺跡の掘立柱建物跡の掘り方から出土した10世紀第2四半期の土器、SX1105から出土した10世紀第4四半期～11世紀第1四半期の土器

10世紀中葉以降は供膳器の須恵器は姿を消す。供膳器は赤焼土器の壊・有台壊・皿が主体となり、第3四半期のこの傾向は続く。10世紀第4四半期から11世紀第1四半期には壊に加え、小形の皿、有台皿、柱状高台のついた皿が多くなる。遊佐町ではこれ以降、12世紀後半の大橋遺跡まで長い空白期間が続く。

第4章 奈良・平安時代の煮沸具と貯蔵具



第4章 小深田遺跡の調査のパネル1

10世紀第2四半期の小深田遺跡のSD77の調査の様子と奈良時代の多くの貯蔵具が出土した小深田遺跡の調査区の説明パネル



第4章 小深田遺跡の調査のパネル2 大坪遺跡2次のSG1と調査風景パネル

奈良時代の煮沸具と貯蔵具が出土した小深田遺跡の出土位置を示すものと、平安時代の煮沸具が出土した大坪遺跡第2次のSG1の全景と、調査風景。



吹浦遺跡から出土した土師器壺と小深田遺跡から出土し田赤焼土器土器壺と羽釜

恐らく奈良時代まで遡る可能性が高い吹浦遺跡の土師器壺2点と平安時代とみられる上高田遺跡SG1F7から出土した赤焼土器の小壺、小深田遺跡の赤焼土器長胴壺と羽釜



東田遺跡から出土した平安時代の小壺、長胴壺と大坪遺跡の三足土器

大坪遺跡の平安時代の赤焼土器壠と東田遺跡の壠



第4章 東田遺跡の調査のパネル1

東田遺跡B区、C区の全景と展示土器出土位置、出土状況を示しています。



第4章 東田遺跡の調査パネル2

堂田遺跡の調査パネル

東田遺跡の展示土器の出土状況、堂田遺跡の鳥形土器の出土位置を示しています。



小深田・東田遺跡の奈良・平安時代の貯蔵具1

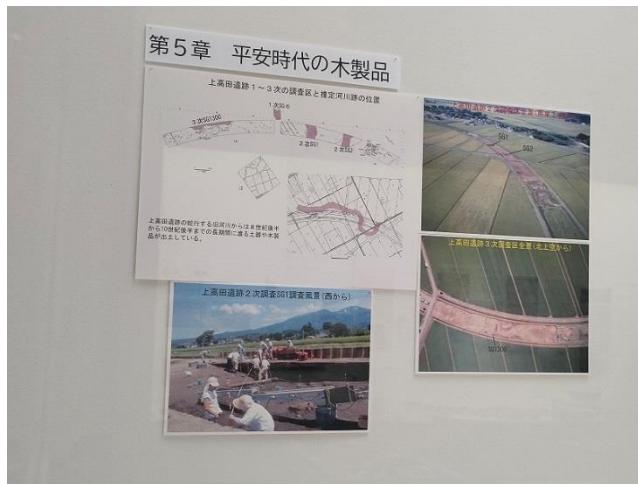
小深田遺跡SK156、SD265、SD400出土の奈良時代の短頸壺、壺、東田遺跡の短頸壺、小形壺。



左:小深田・東田・上高田遺跡の奈良・平安時代の貯蔵具2 堂田遺跡の鳥形須恵器 上段は小深田遺跡の短頸壺、下段は東田遺跡の壺、堂田遺跡の鳥形須恵器、上高田遺跡の壺。

右:上高田遺跡(左)・東田遺跡(右)の須恵器大甕

第5章 平安時代の木製品



第5章 平安時代の木製品パネル1

上高田遺跡の木製品が出土した上高田遺跡の河川跡の位置



第5章 平安時代の木製品パネル2

上高田遺跡のSG1、SG2の木製品出土位置を示す図と写真



具・狩猟具

上高田遺跡・宮ノ下遺跡の建築部材・農耕用



第5章 平安時代の木製品パネル3

上高田遺跡の SG1・2の木製品出土状況写真



第

5章 第4節 器と台所1

宮ノ下遺跡・上高田遺跡河川跡から出土した木製の蓋、皿、椀



第5章 第4節 器と台所2

上高田遺跡河川跡から出土した木製の皿、椀、鉢



第5章 第4節 器と台所3

上高田遺跡河川跡から出土した木製の曲物・瓢箪性の柄杓、籠、宮ノ下遺跡から出土した箸、大坪遺跡、升川遺跡、上高田遺跡の火鑽臼

第6章 地鎮の土器



第6章 地鎮の土器の説明パネル

遊佐町の遺跡では地震で倒壊し、柱を埋めた「掘り方」が大きく変形した痕跡が下長橋遺跡、浮橋遺跡で確認されている。また、地鎮祭祀の一括埋納と考えられる遺構が上記2遺跡に加え、東田遺跡でも検出された。



第6章 地鎮の土器1

東田遺跡 SK470 から重なって出土した赤焼土器



第6章 地鎮の土器2

下長橋遺跡では官衙風の大形建物が倒壊した後に「仏式」で地鎮祭祀が行われ、その後にその道具一式を埋納した「特殊埋設遺構」が6基、小ピットに複数の赤焼土器土器壊や皿を埋納した土器埋設ピット8基が検出されている。今回はこれらのうち「特殊埋設遺構」の EU823、824 の出土品を展示した。EU823 は甕の底部に 12 個の礫を入れ、その上に 9 枚の皿を入れている。EU824 は甕の底部に 8 個の小暦を入れ、甕の内外に 10 枚の皿と有台付を配している。皿の口縁部には煤が付着したものがあり、灯明皿として使用されたと考えられる。

第7章 平安時代の遊佐町の生産・手仕事・装身・陶硯・金属製品



第7章 平安時代製塩土器と土製支脚(?)

北目長田遺跡の製塩土器(下)と吹浦遺跡・東田遺跡の製塩土器 or 支脚



第7章 平安時代の生産(漁撈)、鍛冶関連、紡績

関連資料

吹浦遺跡・東田遺跡の大型土錘、下長橋遺跡・上高田遺跡・北目長田遺跡の土錘、下長橋遺跡・東田遺跡のフイゴの羽口、吹浦遺跡・宮ノ下遺跡・北目長田遺跡の紡錘車



第7章 平安時代の手仕事・装身・陶硯・金属器・古

上高田遺跡の砧・栓・漆刷毛・籠、下長橋遺跡・宮ノ下遺跡の石帯(巡方)、東田遺跡の石帯(丸鞆)、上高田遺跡・木原遺跡の帶金具、上高田遺跡の下駄、上高田遺跡の円面硯、東田遺跡の二面硯・風字硯、吹浦遺跡の鉄鏃、上高田遺跡・北目長田遺跡の刀子、升川遺跡の桑先、大坪遺跡の「隆平永寶」(皇朝十二錢)と東田遺跡・升川遺跡の渡来錢。

第8章 平安時代の遊佐町の祈り・木簡・墨書土器



第8章 祈りに関わる木製品・木簡

宮ノ下遺跡の仏画のある板・棓(つえ)、上高田遺跡の人形・武器形・馬形・斎串、大坪遺跡の轟、伴作万呂の文字が書かれた木簡、上高田遺跡の稻の品種(畔越)が書かれた木簡他。



第8章 墨書土器①



第8章 墨書き土器②

第9章 平安時代の遊佐町の施釉陶器



第9章 平安時代の遊佐町の施釉陶器

大坪遺跡の完形に近い灰釉陶器、上高田遺跡・東田遺跡の灰釉陶器、宮ノ下遺跡・東田遺跡の綠釉陶器



第9章 平安時代の遊佐町の施釉陶器②

下長橋遺跡の施釉陶器

第10章 中世の遊佐町一大楯遺跡の出土品一



第10章 中世の遊佐町一大楯遺跡の出土品

遊佐町で中世の陶器などが出土する遺跡も少なくないが、中でも町指定史跡大楯遺跡の調査成果は目覚ましいものがある。升川遺跡でも大楯遺跡とほぼ同時期の集落が調査され、金俣地区には当館企画展で2年続けて展示した金俣経塚もある。今回は大楯遺跡に絞った展示とした。



第10章 中世の遊佐町 第1節かわらけ

多量に出土しているかわらけのうち、完形の手づくね、ロクロ成形の代表的なかわらけを展示している。



第10章 中世の遊佐町 第2節国産陶器

大楯遺跡から出土した珠洲、瀬戸、越前の陶器(壺、甕、擂鉢、皿、水瓶)等がある。



第10章 中世の遊佐町 第3節木製品

大槻遺跡で出土した木製品は調査年次が古く、保存処理が施されたものは少ない。今回は一部を除いてシーラーパックのままの展示となっている。木製皿、漆器皿、小椀、下駄、笠、糸巻、人形、砧等がある。



第10章 中世の遊佐町 第4節輸入磁器・櫛・墨書き板・硯・鐵製品・古銭

輸入磁器は龍泉窯の青磁の碗、皿、青白磁の碗・皿、同安窯の塊・皿、白磁碗・皿合子等がある。墨書き板には将棋の駒や「ほろは」と書かれた遊佐荘に課せられた年貢の一つの鷲羽のつけ札、「保元」の紀年名のあるある折敷の破片もある。